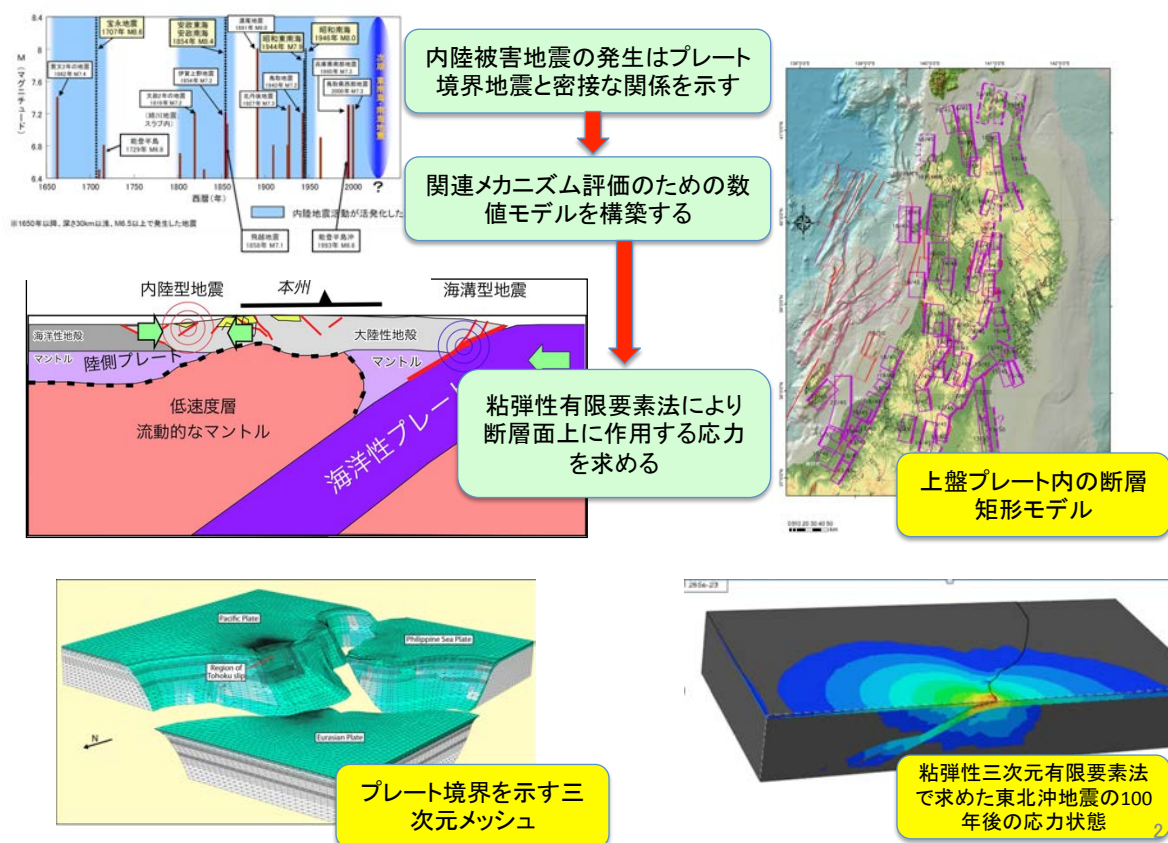


2-6 海溝型地震と内陸沿岸地震 の関連メカニズムの評価準備

東京大学地震研究所

1

⑥ 海溝型地震と内陸沿岸地震の関連メカニズムの評価準備

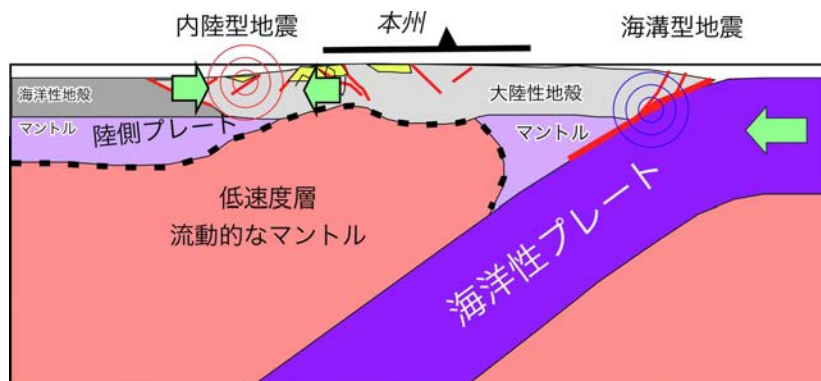


H26年度の目的

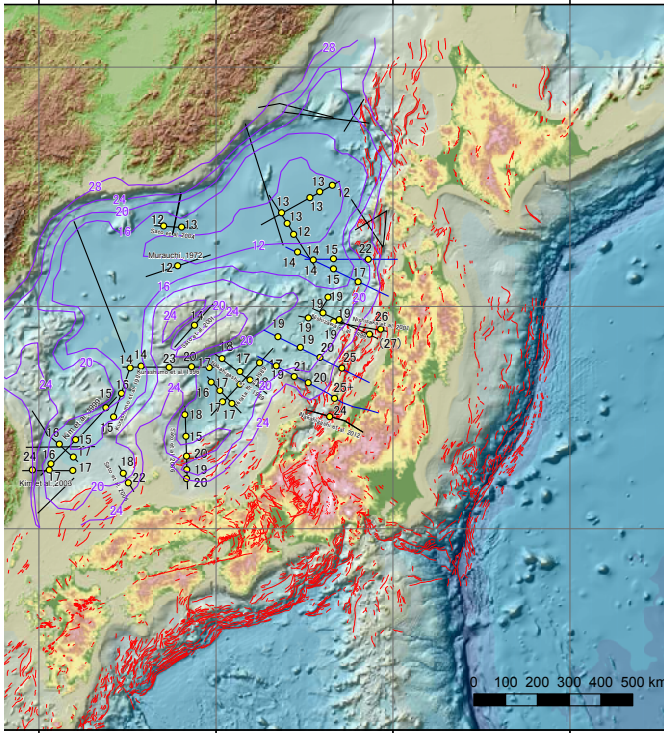
日本海および沿岸域の断層形状モデル(2-5-1)と構成岩石の初期モデル(2-5-3)にもとづいて、日本海域周辺の粘弾性モデル(初期モデル)を作成し、東北地方太平洋沖地震後の応力緩和に対応した断層面に作用するクーロン応力変化を求める。

モデル化する項目

- ・ 沈み込みプレート境界
- ・ リソスフェア・アセノスフェア境界
- ・ モホ面
- ・ 地震発生層の下限(eg. D90)
- ・ 震源断層の形状
- ・ 日本列島下のマントルおよび地殻のレオロジー



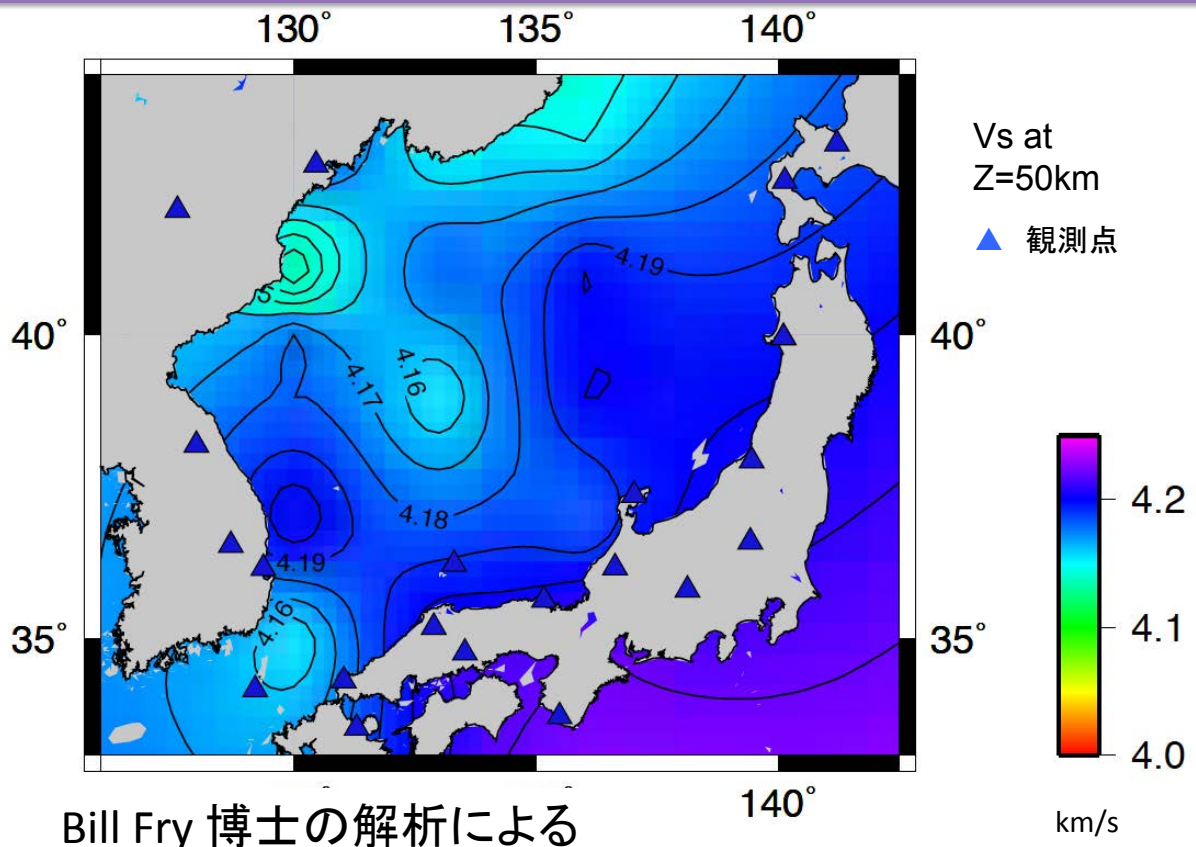
日本海とその周辺のモホ深度マップ



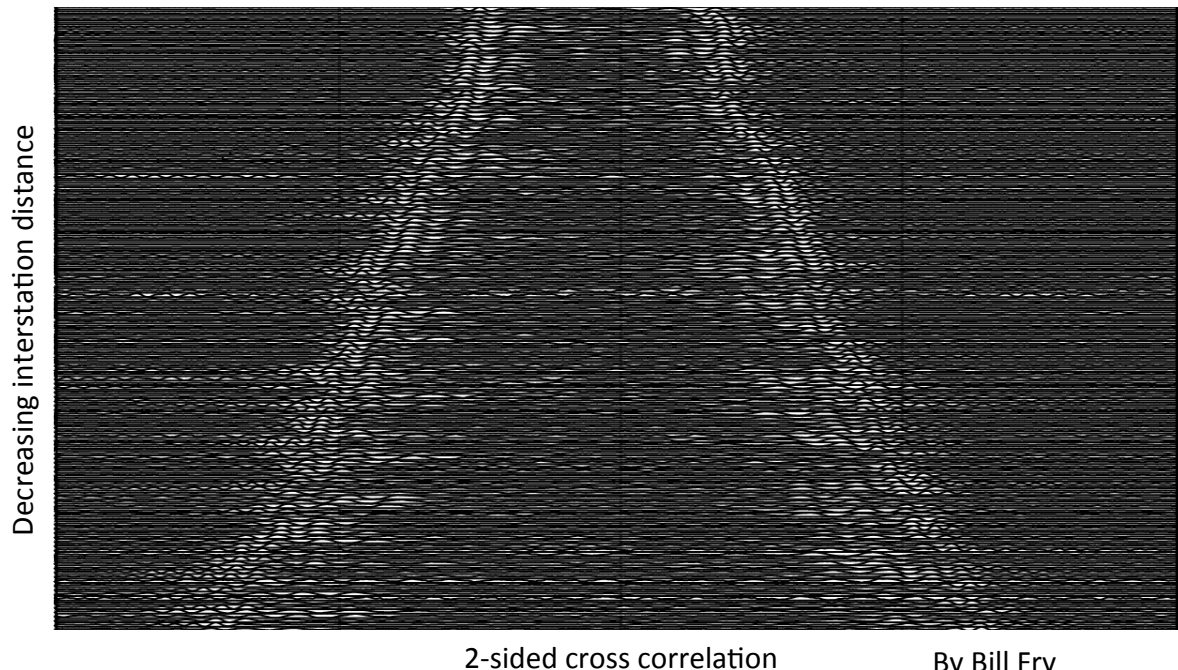
既存の屈折法P波速度断面から数値を読み取りモホ深度の記入

重力異常と速度構造から求められた等高線 (Kulinich and Valitov, 2011) を、P波速度をもとに変更

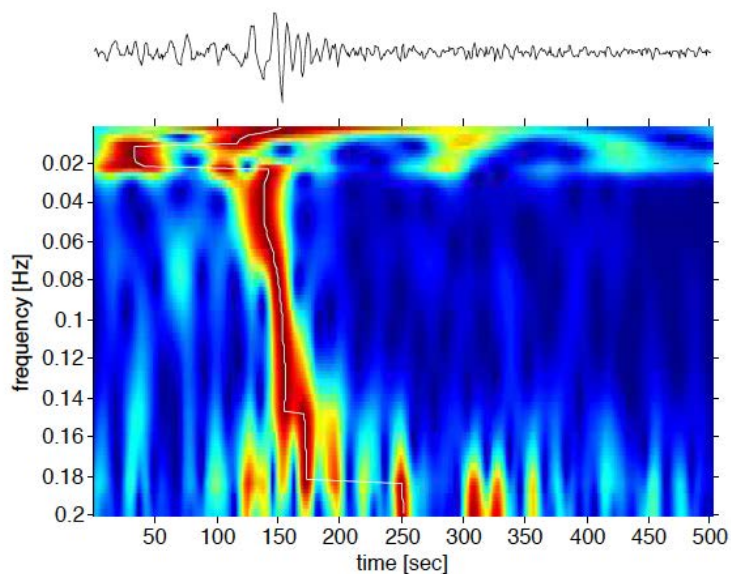
表面波による日本海の地殻・マントル構造

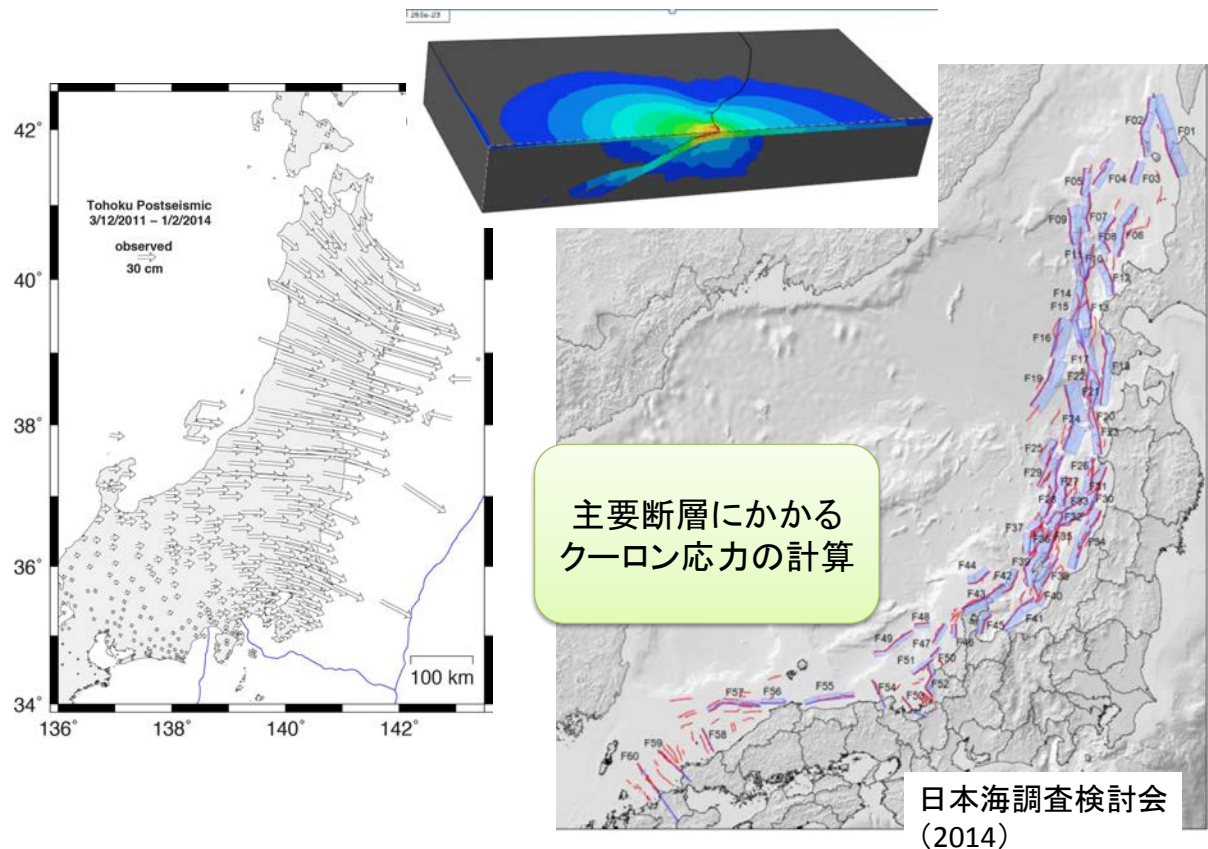


Stable Green's Functions from x-correlations stacked by interstation distance



Example dispersion from cross correlation of a southern Sea of Japan interstation path





本研究の流れ

